

## 八甲田山の火山活動解説資料（令和元年11月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

- ・ 噴気など表面現象の状況（図1）  
監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・ 地震や微動の発生状況（図2）  
火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動の状況（図3、図5）  
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

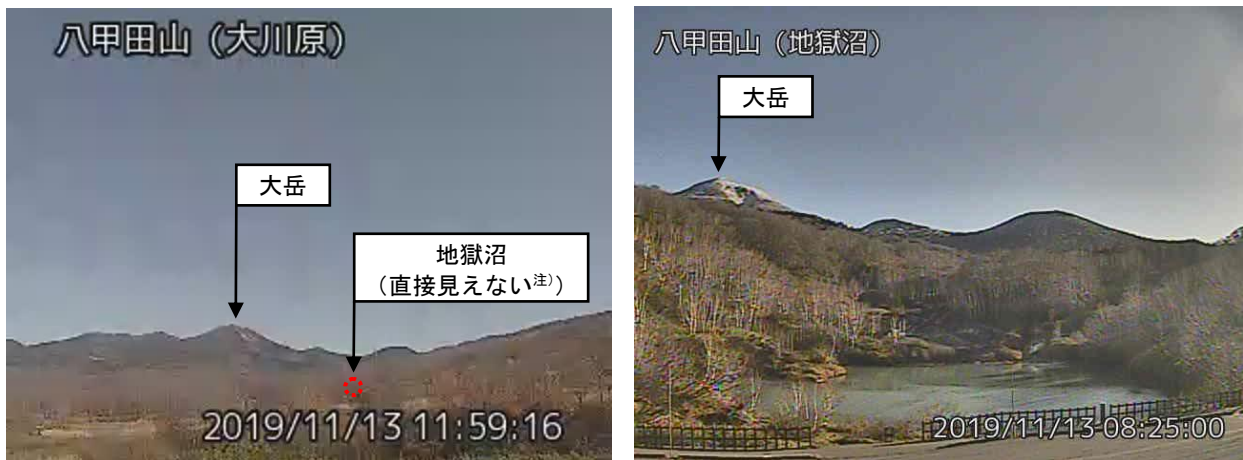


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況（11月13日）

- ・ 左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
  - ・ 右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。
- 注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。  
赤破線が地獄沼の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年12月分）は令和2年1月14日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

計数基準：鳥滝沢北 振幅1.0 $\mu$ m/s以上、S-P時間2秒以内



図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2019年11月）

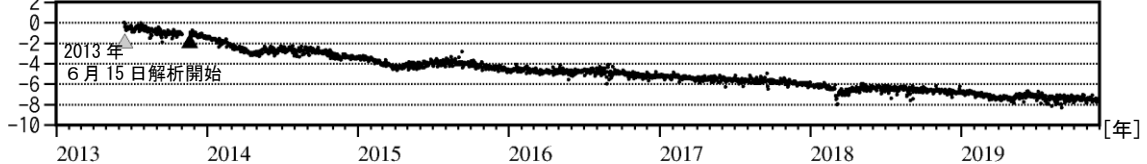
・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。

計数開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点

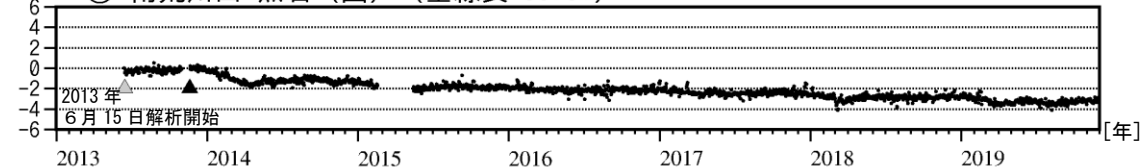
注1) 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点

・灰色部分は欠測を表しています。

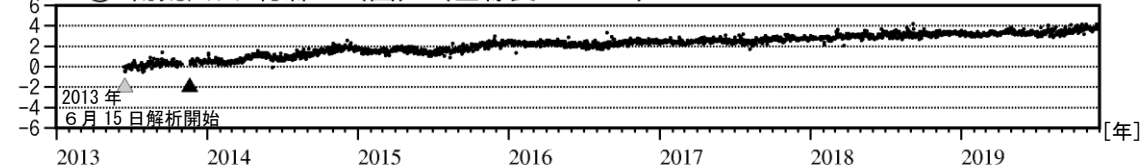
↑伸び[cm] ① 南荒川山-大鰐(国) (基線長 26793m)



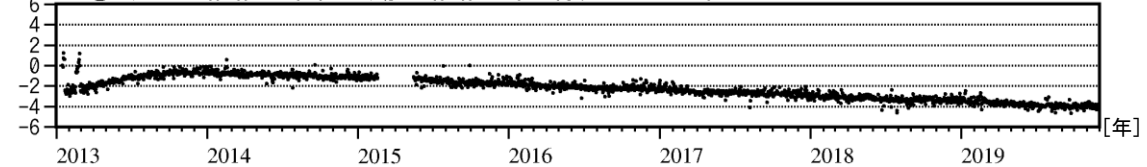
↑伸び[cm] ② 南荒川山-黒石(国) (基線長 3875m)



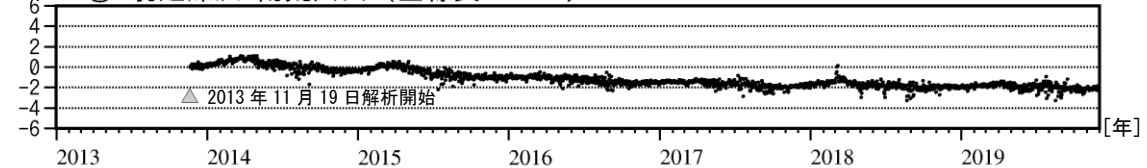
↑伸び[cm] ③ 南荒川山-青森A(国) (基線長 20889m)



↑伸び[cm] ④ 黒石(国)-十和田湖1(国) (基線長 26577m)



↑伸び[cm] ⑤ 駒込深沢-南荒川山 (基線長 8266m)



↑伸び[cm] ⑥ 深持-南荒川山 (基線長 10306m)



↑伸び[cm] ⑦ 深持-駒込深沢 (基線長 5205m)



図3 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2013年1月～2019年11月）

・空白部分は欠測を示します。 ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

・①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。

▲：2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。

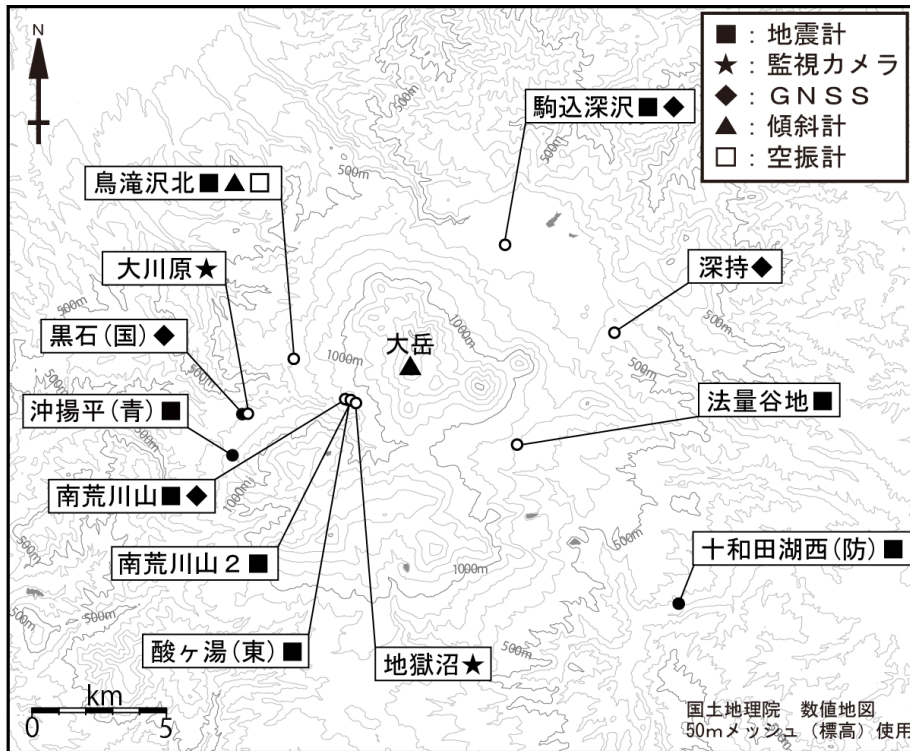


図4 八甲田山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所  
（青）：青森県

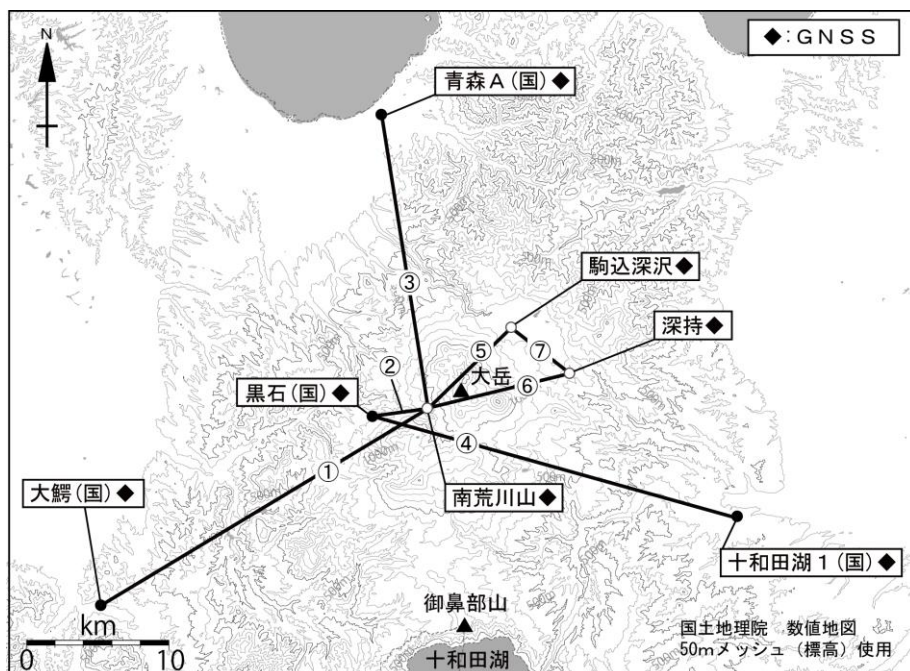


図5 八甲田山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院